

授業改善プラン

教科（ 数学 ）

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。改善策として ICT の活用を導入するものは**太字**

	観 点	1 学期	2 学期		3 学期	小中一貫の 取組
		今年度の取組 昨年度の課題から	分析	具体的な改善策	改善プランの評価 来年度に向けて	
1 年 生	知識・技能	整数を用いた正負の数、文字式の計算はできるようになった。一方で、分数・小数を用いた計算、分配法則を用いた計算の定着は十分ではなかった。今後も基礎基本の定着のために、定期的に計算練習を行っていく。	定期考査において、平均得点率が60%を超えていたが、一方で分数、小数が含まれた計算に関しては苦手と感じる生徒が見受けられた。	授業の導入の際に、前時で学習した用語、公式について繰り返し確認していく。授業の導入で、計算の練習を行う。		
	思考力・判断力 表現力	既習事項を確認し、各単元との繋がりを意識できるように指導を行い、立式や自己の解答に対する説明を行わせる。	定期考査において、説明すること、途中式を書くことに課題があると考えられる。	問題に対して、具体的な図・表・グラフなどを例示していくと共に、 グラフがかけるサイトの共有・活用を進め、説明する能力を養っていく。		
	主体的に学習に取り組む態度	自己の振り返りを毎授業行えた。今後は、振り返りを具体的に記述させるように指導する。	アンケートにて、「授業によって興味や関心がわき、自ら学びたいと感じた。」とした生徒が81%と、高い値になった。	振り返りシート の具体的記述や次回に生かす内容を声掛けすると同時に、 振り返りシートにコメントを返していく。		
2 年 生	知識・技能	文字を使った計算や、方程式の計算の定着が十分ではなかった。基礎基本の定着のために、定期的に既習事項に関わる計算練習を行っていく。	アンケートにて、「授業内で復習を取り入れることで理解が深まった」との回答をいくつか得た。	途中式の指導、計算の方法を確認する。授業の導入で、前時までに学習した計算の練習を行う。		
	思考力・判断力 表現力	証明に対しては苦手意識を持つ生徒が半数以上いて、論理的に説明することが難しかった。各単元との繋がりを意識できるように指導を行い、解答に対する説明を行わせる。	定期考査において、説明記述問題の正答率が、他の観点の問題よりも比較的低かった。	問題に対して、具体的な図・表・グラフなどを例示していくと共に、 グラフがかけるサイトの共有・活用を進めていく。		
	主体的に学習に取り組む態度	自己の振り返りを毎授業行えた。一方で抽象的な表現が多かったので今後は、振り返りを具体的に記述させるように指導する。	アンケートにて、「授業によって興味や関心がわき、自ら学びたいと感じた。」とした生徒が85%と、高い値になった。	振り返りシート の具体的記述や次回に生かす内容を声掛けすると同時に、 振り返りシートにコメントを返していく。		
3	知識・技能	基礎基本の定着のために、定期的に既習事項に関わる計算練習を行っていく。	前時の内容の確認に加え、計算の練習を毎時間行うことで、定期考査におけるこの観点の正答率は上がった。	授業の導入で、計算の練習を継続して行っていく。		

授業改善プラン

教科（ 数学 ）

	思考力・判断力 表現力	既習事項を確認し、各単元との繋がりを意識できるように指導を行い、立式・説明を行わせる。	計算はできても、立式の方法、考え方の説明、証明をすることなど、考え方を文章化することについて苦手とする傾向が見られた。	問題を解く際や、解説の際に、前時の問題や、これまでの学習内容と共通していることや、学習してきたことの何が使えるかを問うようにしていく。		
	主体的に学習に取り組む態度	自己の振り返りを毎授業行えた。今後は、振り返りを具体的に記述させ、次の授業との繋がりを考えさせるように指導する。	アンケートにて、「授業によって興味や関心がわき、自ら学びたいと感じた。」とした生徒が 64%と少なかった。	振り返りシート を記入する際に、次回にどうつなげるのか声掛けをすると同時に、 振り返りシートにコメントを返して いく。また、問題設定に具体的事例を取り上げることで、数学に対する興味・関心を持たせていく。		

カリキュラムマネジメントの視点から
小学校段階までの学習内容を把握し、既習事項の活用を意識した指導計画を作成する。